



T.Miki

サマー2000シリーズ

THE KOKURA KINEN

第61回 農林水産省賞典 小倉記念 (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
付加賞 602,000円 172,000円 86,000円



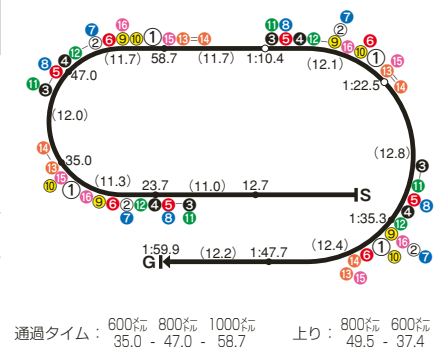
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、2024.7.13以降2025.7.13まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2025.7.20 小倉 晴・良 芝2000m (国産) (特招)

順位	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	イングランドアイズ	牝	5	51	松若風馬	1:59.9	5-4-4-5	36.2	450(+2)	16.3⑨	安田翔伍(栗東)	100
2	⑥	シェイクユアハート	牡	5	55	古川吉洋	1分	8-8-5-4	36.4	444(-10)	6.1③	宮 徹(栗東)	104
3	⑩	ティンブモンスター	牡	7	58	北村友一	1	6-6-7-7	36.3	470(+2)	5.8②	池江泰寿(栗東)	108
4	⑧	ラスカンプレス	牡	4	56	荻野 極	ハナ	13-13-13-13	35.4	490(±0)	12.1⑥	林 徹(美浦)	104
5	⑦	オールセインツ	牡	4	54	酒井 学	1	9-9-8-7	36.4	502(+4)	11.0⑤	友道康夫(栗東)	
6	⑫	ハビ	牡	6	57	坂井瑠星	クビ	11-11-11-11	36.1	482(-4)	6.6④	大久保龍志(栗東)	
7	⑪	ダンディズム	騾	5	56	高杉吏麒	¾	15-15-15-15	35.6	468(±0)	90.0⑬	野中賢二(栗東)	
8	⑮	ナムラエイハブ	牡	4	55	松山弘平	クビ	3-5-5-5	36.9	516(+8)	14.9⑧	長谷川浩大(栗東)	
9	④	メリオレム	牡	4	56	川田将雅	クビ	12-12-12-12	36.1	488(-6)	5.0①	友道康夫(栗東)	
10	⑮	ニホンビロキーフ	牡	5	56	幸 英明	アタマ	3-3-2-2	37.3	476(-4)	21.3⑪	大橋勇樹(栗東)	
11	⑨	リカンカフル	騾	6	58	団野大成	½	7-6-8-7	36.8	488(-10)	26.4⑫	田中克典(栗東)	
12	⑤	マイネルメモリー	牡	5	56	田口貴太	アタマ	13-13-13-13	36.0	464(-2)	20.7⑩	宮 徹(栗東)	
13	②	ショウナンアディブ	牡	6	56	岩田康誠	½	9-9-8-7	36.9	512(-10)	14.2⑦	高野友和(栗東)	
14	③	カネフラ	牡	5	54	永島まなみ	1½	15-15-15-16	36.0	452(±0)	43.4⑭	高橋康之(栗東)	
15	⑬	ススカダブル	牡	5	54	吉村誠之助	クビ	2-2-2-1	37.9	500(-4)	43.8⑮	西村真幸(栗東)	
16	⑭	グラティアス	牡	7	56	小沢大仁	大差	1-1-1-2	41.5	492(+2)	156.1⑯	安田翔伍(栗東)	

単勝①1,630円(9½%) 複勝①440円(8½%) ⑥220円(3½%) ⑩220円(2½%) 枠連①-③1,740円(10½%)
馬連①-⑥4,740円(17½%) ワイド①-⑥1,550円(16½%) ①-⑥1,810円(24½%) ⑥-⑩740円(2½%)
馬単①-⑥10,850円(46½%) 3連複①-⑥9,900円(23½%) 3連単①-⑥74,990円(250½%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.0 - 47.0 - 58.7 49.5 - 37.4

アラカルト

- ・松若風馬騎手はアズマシャトルで制した15年に続く小倉記念2勝目。JRA重賞はフェーングロテンで制した22年ラジオNIKKEI賞に続く通算12勝目
- ・安田翔伍調教師は小倉記念初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算14勝目
- ・Kingman産駒はJRA重賞通算5勝目
- ・5歳馬の勝利は20年アールスターに続く通算24回目
- ・牝馬の勝利は22年マリアエレーナに続く通算16回目
- ・ハンデ51♂での勝利は89年ダンツミラクル以来36年ぶり、通算5回目(別定戦だった95年～99年は除く)
- ・出走取消馬 エピファニー(疾病(右後肢跛行)のため)

⑧ イングランドアイズGB *England Eyes*

牝 鹿毛 2020.4.1生
イギリス Hara Reiko Racing Co.Ltd生産
馬主・原禮子氏 栗東・安田翔伍厩舎
馬名意味・イギリスの瞳

ファークスブロスベクトUSA系 F3-4

Kingman 鹿毛 2011	Invincible Spirit 鹿毛 1997	Green Desert
		Rafha
Nuovo Record 栗毛 2011	Zenda 鹿毛 1999	Zamindar
		Hope
	Heart's Cry 鹿毛 2001	Sunday Silence
		Irish Dance
	Omega Spirit 鹿毛 2001	Spinning World
		Fager's Prospect

5代までのインブリード：Danzig S4×M5 Northern Dancer S5×M5
Mr.Prospector S5×M5 Lyphard S5×M5

INTERVIEW

上水司 場長(山元トレーニングセンター・育成)

待望の重賞勝ちで感激しています

原オーナーのご希望で英国に移動してキングマンを配合、誕生した産駒です。オーナーご自身も渡英するなど、その情熱と驚異的なフットワークの軽さにいつも驚かされます。当歳11月に社台ファームへ入場し、2歳9月にこちらへ移動して以降、ずっと調整されてももらっています。ラストの勝負根性は素晴らしいかったですね。母の産駒、待望の重賞勝ちで感激しています。

S. Okada



先手を奪ったグラティアスが1コーナから後続を離して逃げ、レースは速い流れ、縦長の隊列で進行。イングリッドアイズの松若風馬騎手は4番手のインに腰を落着ける。重賞で上位入着を重ねてきたディーブモンスターは中団につけ、3勝クラスを勝ち上がったばかりながら、安定感抜群の戦歴を誇るシェイクユアハートがその背後を迫る。そんな2、3番人気の両馬に対し、好時計で差し切ったむらさき賞の勝ちつづりを評価され、1番人気の支持を集めたメリオレムは促し気味の手応えで後方を進んだ。

逃けたグラティアスは4コーナで急激に失速。3コーナから進出にかかり、いち早く前に迫ったシェイクユアハートが直線半ばで先頭に躍り出る。勝負どころの反応が鈍かったイングリッドアイズは後手に回る格好となったものの、直線に向いて進路が開くと鋭い末脚を繰り出して反撃。先に抜け出したシェイクユアハートを一気にかわしてゴールに飛び込んだ。

オークスをはじめ、日米で重賞4勝を挙げた名牝ヌーヴォレコルトを欧州で繁殖入りさせ、キングマンと配合して誕生した本馬は、3歳時にはクイーンC、フローラSで4着に好走、オークスにも駒を進めた(16着)経歴を持つ。今年3月に2勝クラスを卒業した後は、昇級初戦のシドニートロフィー5着、続く垂水Sも7着に敗れたが、ハンデ差も見据えて格上挑戦を決めた陣営の選択がズバリと的中。両親から受け継いだ良血が花開き、5歳の夏に嬉しい重賞初制覇を果たした。

父キングマン Kingman

イギリス産 英、仏、愛8戦7勝(愛2000ギニー^{G1}、セントジェームズバレスS・英^{G1}、サセックスS・英^{G1}、ジャックマルロワ賞・仏^{G1}、グリーンナムS・英^{G3}、ソラリオS・英^{G3}、英2000ギニー^{G1}2着)、全欧年度代表馬、全欧3歳牡馬チャンピオン、15年から英で供用

〔代表産駒〕**パレスピア** Palace Pier(セントジェームズバレスS・英^{G1}、ジャックマルロワ賞・仏^{G1}2回、ロッキンジS・英^{G1}、クイーンアンS・英^{G1})、**ベルシアンキング** Persian King(仏2000ギニー^{G1}、イスパーン賞・仏^{G1}、ムーランドロンシャン賞・仏^{G1})、**フィールドオブゴールド** Field Of Gold(愛2000ギニー^{G1}、セントジェームズバレスS・英^{G1})、**ドメスティックスペンディング** Domestic Spending(ターフクラシックS・米^{G1}、マンハッタンS・米^{G1}、ハリウッドダービー・米^{G1})、**スパークリングブレンティ** Sparkling Plenty(仏オークス^{G1})、**キンロス** Kinross(フォレ賞・仏^{G1}、英チャンピオンズプリントS^{G1})、**フィードザフレイム** Feed The Flame(パリ大賞・仏^{G1})、**ソテルヌFR**(ムーランドロンシャン賞・仏^{G1})、**シュネルマイスター** GER(NHKマイルC^{G1})、**コミッションGB**(フィリーズマイル・英^{G1})、他に重賞勝ち馬多数

母ヌーヴォレコルト

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央18戦5勝(オークス^{G1}、中山記念^{G2}、ローズS^{G2}、こうやまき賞、秋華賞^{G1}2着、エリザベス女王杯^{G1}2着2回、オールカマー^{G2}2着、チューリップ賞^{G2}2着、桜花賞^{G1}3着)、北米、香5戦1勝(レッドカーペットH・米^{G3}、香港C^{G1}2着)、17年輸出(英)、21年帰国
ドンナセレーノGB(18 牝父ロードカナロア)中央17戦3勝(石和特別)
キュルクマGB(19 牝父Frankel)中央2戦0勝

イングランドアイズGB 本馬(20 牝父Kingman)中央16戦4勝(小倉記念^{G3}、

千里山特別、若戸大橋特別)獲得総資金105,698,000円
オメガインベリアルGB(21 牝父Kingman)中央11戦2勝 ㊟
セナスタイル(22 牝父Sottsass)持込 中央1戦1勝 ㊟
(23 牝父サートウルナリーア)
(24 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)
(25 牝父ナダルUSA)

祖母オメガスピリット

北海道新町 森永正志氏生産 中央3勝(有田特別、医王寺特別)、23年用途変更
オメガユニコーン(10 騾父ネオユニヴァース)中央2勝(楡原湖特別)、地方0勝
ヌーヴォレコルト(11 前出)
オーケストラ(15 騾父ハーツクライ)中央3勝(横手特別)、地方1勝

良血馬が実績上位馬を一蹴し重賞初制覇

1965年にハンデ戦として創設された小倉記念95、99年は別定の最軽量ハンデ優勝記録は51歳で、初代のウイナー・ヒロタカマから89年のダンツミラクルまで、4頭が勝利を飾っている。4週間の日程で行われた夏開催の最終週に組まれた今年のレースで、5頭目に加わったのが9番人気の伏兵イングランドアイズ。3勝クラスから格上挑戦してきた良血牝馬が実績上位の面々を一蹴し、初の勲章を手にした。

先手を奪ったグラティアスが1コーナから後続を離して逃げ、レースは速い流れ、縦長の隊列で進行。イングリッドアイズの松若風馬騎手は4番手のインに腰を落着ける。重賞で上位入着を重ねてきたディーブモンスターは中団につけ、3勝クラスを勝ち上がったばかりながら、安定感抜群の戦歴を誇るシェイクユアハートがその背後を迫る。そんな2、3番人気の両馬に対し、好時計で差し切ったむらさき賞の勝ちつづりを評価され、1番人気の支持を集めたメリオレムは促し気味の手応えで後方を進んだ。

逃けたグラティアスは4コーナで急激に失速。3コーナから進出にかかり、いち早く前に迫ったシェイクユアハートが直線半ばで先頭に躍り出る。勝負どころの反応が鈍かったイングリッドアイズは後手に回る格好となったものの、直線に向いて進路が開くと鋭い末脚を繰り出して反撃。先に抜け出したシェイクユアハートを一気にかわしてゴールに飛び込んだ。

オークスをはじめ、日米で重賞4勝を挙げた名牝ヌーヴォレコルトを欧州で繁殖入りさせ、キングマンと配合して誕生した本馬は、3歳時にはクイーンC、フローラSで4着に好走、オークスにも駒を進めた(16着)経歴を持つ。今年3月に2勝クラスを卒業した後は、昇級初戦のシドニートロフィー5着、続く垂水Sも7着に敗れたが、ハンデ差も見据えて格上挑戦を決めた陣営の選択がズバリと的中。両親から受け継いだ良血が花開き、5歳の夏に嬉しい重賞初制覇を果たした。